



新九郎通信

発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

待ちに待った桜が咲き始めました。つくし、菜の花、新芽をつけたアジサイ、萌え始めた山々を見ながらの散歩が楽しい季節です。新玉ねぎ、のらぼう菜、春キャベツなど旬の野菜も食卓を彩ってくれます。新生活の始まる4月は、子どもも大人も心新たにスタートする時。今年はどうな新しい出会いがあるの、楽しみな新年度がスタートします。4月の新九郎は、写真、木工、禅美術、パステル画と楽しみな展示が続きます。皆様のご来廊をお待ちしています。

新九郎 4月の展覧会のご案内

近隣・友の会会員の展覧会情報

	会期 展覧会名	見どころ
	4/1(水)~6(月) 第33回小田原写真研究会展	石田欽児、大森重臣、柏木茂高、勝俣悦子、近藤義栄、内藤賢二、二見多美恵、森下とし子、山田潔
	4/8(水)~13(月) 木組会作品展	木工の匠 近藤敏雄先生の傘寿のお祝いと、教えを受けた木組会の結成35年の記念展
	4/17(金)~19(日) 禅文化展覧会	東京院所蔵禅の書画を公開 19日(日)13時~ 岸達志老師による講演
	4/22(水)~27(月) 火曜パステル会作品展	会員13人が出品 裏面に紹介記事掲載
	4/24(金) 新九郎デッサン会	18:15-20:45 会費1500円 コスチューム、固定ポーズ
	4/29(水)~5/11(月) 5/5(火)休 横井山泰展「箱ざんまい」	新九郎9回目の個展、擬人化された動物等、独特の個性です 5/2(土)17:30 レセプション
	5/2(土) 第11回新九郎寄席	立川志らら、笑福亭瓶二 午後3時開演、1500円

会期・展覧会名	会場
4/1(水)~4/6(月) 戸樋谷哲生回顧展	お堀端画廊 0465-23-7819
4/8(水)~4/13(月j) 第2回水香会 油絵展	お堀端画廊 0465-23-7819
4/3(金)~4/14(火)8.9休廊 住谷重光展-海からの光り-	ギャラリーさざれ石 0463-67-9662
4/15(水)~4/20(月) 梅津忠雄・今澄鈴子第4回写真展	飛鳥画廊 0465-24-2411
4/23(木)~4/26(日) 第28回 圓珠書展	飛鳥画廊 0465-24-2411
4/16(木)~4/19(日) 友田ファミリー展	アオキ画廊 2F 0465-23-5624
4/22(水)~4/27(月) 第17回喜楽舎日本画展	アオキ画廊 2F 0465-23-5624
4/30(水)~5/4(月) ボヴェ和歌子作陶展	アオキ画廊 1F 0465-22-0825
4/2(木)~4/5(日) 長谷川青峯茶陶展	ギャラリー城山 0465-30-2950
4/20(月)~5/23(日) 湯河原温泉場 大観荘 温泉場で絵画展 広瀬昭一朗	0465-62-3785

東海道五十三次 20(桑名宿・六華苑)

5年をかけ、足で歩いたスケッチ紀行 松野光純



熱田の宮から桑名まで海路で七里あったことから「七里の渡」と呼ばれていた。その七里の渡跡近くに「六華苑」がある。

ここの建物は、鹿鳴館を設計したイギリス人建築家ジョサイア・コンドルが設計。四層の塔屋を持つ木造二階建ての洋館と池泉回遊式庭園を持つ和式建築からなり、大正2年(1913)に完成し、明治・大正期を代表する貴重な文化遺産として、国の重要文化財に指定されている。

この建物は、山林王と呼ばれた桑名の実業家二代目諸戸清六の邸宅として竣工したものであるが、小田原の国府津にある登録有形文化財に指定されている「諸戸邸」とは大いに関係あることが判った。

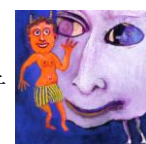
愚うことなど 横井山 泰

アートフェア東京は無事に終了しました。昨年の個展からのご縁でエクリュの森から、愛犬や近所の猫をはじめ動物シリーズを出品しました。ありがたい結果でした。そして、改めて今の自分の立ち位置をみたのです。これから何をしなくてはならないのか?余計な事は何なのか?まずは「自分の都合で判断したり描くのは止めよう」と決めました。



4月29日からは新九郎の個展です。毎年の個展も早いもので9年目になります。今年はパズル、立方体、正方形の展示です。展覧会タイトルを「箱ざんまい」としました。箱と言えば「つづら」です。舌切り雀のお話を立方体に描いた作品もあります。以前「軽いつづら」という展覧会をした時に「つづらって何?」と二十歳の女の子に聞かれ唖然としました。「つづらはつづらだよ、昔の衣装ケース。雀のお宿、知らない?」「知らない」「・・・」会話は続き、彼女が帰国子女である事が判明し「なるほど」となったのでした。そして「なぜお爺さんは軽いつづらを選んだのか?」「なぜお爺さんの選んだつづらからは宝物が出てきて、お婆さんの選んだつづらからはお化けが出てきたのか?」「お爺さんが重いつづらを選んだら何が出てくるのか?」話は続いて行くのです。

鬼と木に登った子どもの絵を観て「雪山童子である」と物語を知っていれば解ります。しかし、先程の「なぜ〜」と同じように重要なのは「童子は悟りの言葉を誰かに伝えるために鬼に食べられようとした」「童子は鬼から聞いた言葉を誰かのために木に彫りつけた」「童子はそれらの行為によって釈迦に生まれ変わった」ということなのでしょう。眠れない夜が続きます。



火曜パステル会作品展 2015. 4. 22 (水) ~ 4. 27 (月)

平成 5 年、生涯学習センターけやきで開講しました。「描く楽しみ、観る楽しみ」をモットーに毎月第 1・第 3 火曜日に学んでいます。



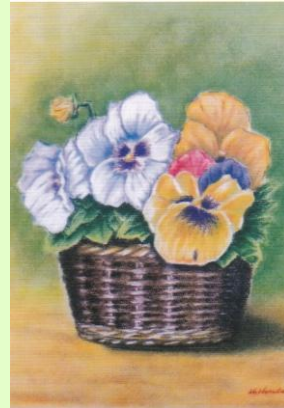
【出品者】
青木美代子、石川艶子、岩田定吉、勝又久美、松風緑子、高木サト子、高嶋千恵子、橋本金雄、府川恵美子、古屋隆士、堀政子、本多広光、三浦和子
【賛助出品】 高木なえ

…パステルの箱を開いた時

ワー！何と美しいと感動される事でしょう。グラデーションに並べられた小さなパステルは、虹のような輝きで早く夢を描いて語りかけます。

箱の中の一本一本が作品をとささやく情熱に動かされ、モチーフの花や旅の思い出を画面構成し、今この会場で花を咲かせています、会員の心の日記帳として、ご高覧いただきます皆様にやさしさを感じていただければ幸いです。

講師 高木なえ



パステルに魅せられて絵の仕上がりが美しい。二度塗三度塗ができる。他の絵より（油絵、水彩画等より）汚れが少なく、汚れても叩くか水洗いで落ちてしまう。最後に画材が非常に廉いから私は大好きだ。

本多廣光



人は何故あらゆる光景や心情を絵画・音楽・文学等で表現するのでしょうか？

私にとって絵を描くことは手慰みに過ぎませんが、人生に何らかの彩りと潤いをもたらしてくれます。 勝又久美



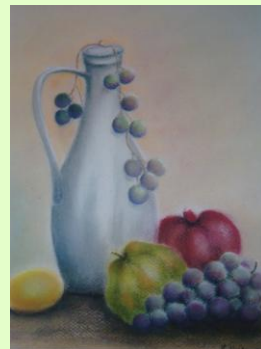
和気藍藍。何年も続けられたのはすばらしい仲間と高木先生の御指導のお蔭。パステル絵具を手に、口も動かして話題も豊富。美術展、旅行の話等。描いた絵は自己満足。

石川艶子



いよいよパステルカラーの季節。春はパステルの様に柔らかく、明るい野山の景色が目に入る。パステル画の好きな人であれば、誰でも一度は描きたくなる。ぜひ描いてみてはいかがでしょうか。

古屋隆士



私はパステル画をはじめ、10 数年になります。絵を描く心は、風景や草花等、自然の美しさを素直に感動できる気持ちだと思います。

パステルは、指でまぶしたり、こすったり描き自分の心が直接画面に伝わります。この作品は、その中の 1 枚です。

橋本金雄

絵てがみ折々 一 小田原の暮らしの中で一

野地 三恵



三月下旬になると、箱根の湿生花園が開園する。毎年この頃、ドライブながら訪れるのを楽しみにしている。

木の下に咲くかたくりの花

花が何となく寒そうだ。木道を歩いていくと、水芭蕉の群生に出会う。この時期の小さな姿が私は好きだ。白い花と瑞々しい葉が水面に映って美しい。どこかに座禅草があるはずと探すうちに、やはり足元に 2、3 株見つけた。名前さながらの花の形だ。

まだ冬の気配の残る広い園内からは周囲の山々が見え、池の底にゼラチンのような蛙の卵が沈んでいた。山の遅い春の到来を、感じるひとときだった。

3月のこと

【アートフェア東京 2015】

国内外からの一流ギャラリーが集まり、古美術・工芸から現代の日本画・洋画、現代アートまで一同に揃う、日本最大のアートフェア。

最近では写真作品が増えている。また絵画では写真的な表現が多い。モルドバ出身 40 代のアレキサンダー・ティネイの絵に惹かれた。インターネットの SNS から抽出した写真を元に描く。うつむき加減の男の顔というより頭部を描いた作品は、肌の色がなまめかしく、どこかしら不穏な感じを与える。昨年、原美術館で観たミハヤエル・ボレマンス（ベルギー）の感性に通ずる。私は今日の時代性を感じさせる写真や写真的な表現の絵に惹かれる。リアルに描かれた絵に興味はない。現代アートは写真と絵画の境界がなくなりつつあるのだろう。

いま一人は「TAGAMI」という日本の作家。子供の頃からの大人嫌いがずっと続く 70 歳の画家。29 歳の時ふと見たヌードデッサン会に参加し、絵を描くことの面白さに目覚める。以後ひたすら描く生活を送っている。絵の作風は様々で一つのスタイルにはまらないが、自由で力強い。2014 年バリのアウトサイダーアートフェア、南仏セット市の MIAM 美術館に出品。⊕